

## 島根県西部のイカリソウ属 (*Epimedium*) の分布と形態の比較

柳 浦 正 夫\*

### Comparison of distribution and forms of *Epimedium* in the western area of Shimane Prefecture

Masao Yagiura\*

#### 1. はじめに

島根県の本土におけるイカリソウ属 (*Epimedium*) の分布や形態について、東部での状況は山田 (1989) の詳細な報告がある。また中部は柳浦 (2019) で報告している。しかし西部においては中国山地の各地を広く調査した黒崎 (1981) でも記録がないなど、状況がわかる文献は見当たらない。このためその分布状況や形態について調査した。

#### 2. 調査方法

調査は2019年から2022年にかけて行った。調査方法は黒崎 (1981)、山田 (1989) を参考とし、各地で花の色を観察した。また持ち帰り、花の大きさを測定し、標本にして小葉の分岐を観察した。

#### 3. 形態比較について

##### (1) 花色

花色は白色以外は赤紫色や紫色などと表現できるが、それぞれに色の変化があるので一括して扱い、大まかな分類とした。図1ではIとして表した。

- a… 白の場合
- b… 色が薄い場合 (わずかに着色されているものも含む)
- c… 色がついており濃い場合

##### (2) 小葉の分岐

- 1回2出 : ①
- 1回3出 : ②
- 2回2出 : ③
- 2出して3出 : ④
- 2回3出 : ⑤

基本的には以上の分岐であるが、例えば⑤の分岐をするもので、一部の小葉が2枚や1枚しか分岐していないことがある。この場合は⑤の変形と考えた。図1において各交雑群でそのような形態をもつものが0%なら○⑤, 0%より多く20%以下なら●⑤, 20%より多く60%以下なら△⑤, 60%より多いなら×⑤としている。これらは多くは異型とはいえず、ほとんどが移行の段階にあるものである。

また、葉は栄養葉のみをつけるものと花茎の途中から出るものがある。これを分けて小葉の状態を記録した。観察していくと成長した大きな株は花茎を伸ばすものの数が多くなるので結果的に栄養葉の割合が低くなる。また、この地域のものは常緑で昨年度の葉もそのまま見られる。昨年花茎を伸ばしていたものも見られるが、花茎の部分は枯れてその下の葉の部分は残っている。このため茎の部分で途中の節の部分から少し曲がっている。これは花茎をつけていたと考えられるのでその扱いにした。またその曲がった部分に少しだけ花茎の残りがついているものも見られる。小葉の出方については2つを分けて、図1において、花茎のものをII, 栄養葉のみをIIIとして示した。

\* 松江市立皆美が丘女子高等学校, 〒690-0835 島根県松江市西尾町540番地1

Matsue Municipal Minamigaoka Girls' High School, 540-1, Nisio-cho, Matsue, Shimane 690-0835, Japan

4. 結果と考察

□▲■は以下の文章に示す各分類群を示したものである。

観察した場所を表1と図1に示した。各調査地点の

表1 観察地点

1 □ 浜田市旭町市木 越木 (230m)	5 □ 益田市匹見町道川 白木谷 (570m)	9 ■ 鹿足郡津和野町佐鑑一ノ谷 (150m)
2 □ 浜田市金城町小国 (410m)	6 ▲ 益田市美都町都山本金谷 (300m)	10 ■ 鹿足郡津和野町佐鑑滑峠 (595m)
3 □ 浜田市鍋石町野坂峠 (490m)	7 ▲ 益田市匹見町道川 下道川上 (440m)	11 ■ 鹿足郡津和野町笹 元笹山 (550m)
4 □ 浜田市弥栄町程原 (480m)	8 ▲ 益田市匹見町紙祖 七村 (340m)	12 ■ 鹿足郡吉賀町抜月 (325m)

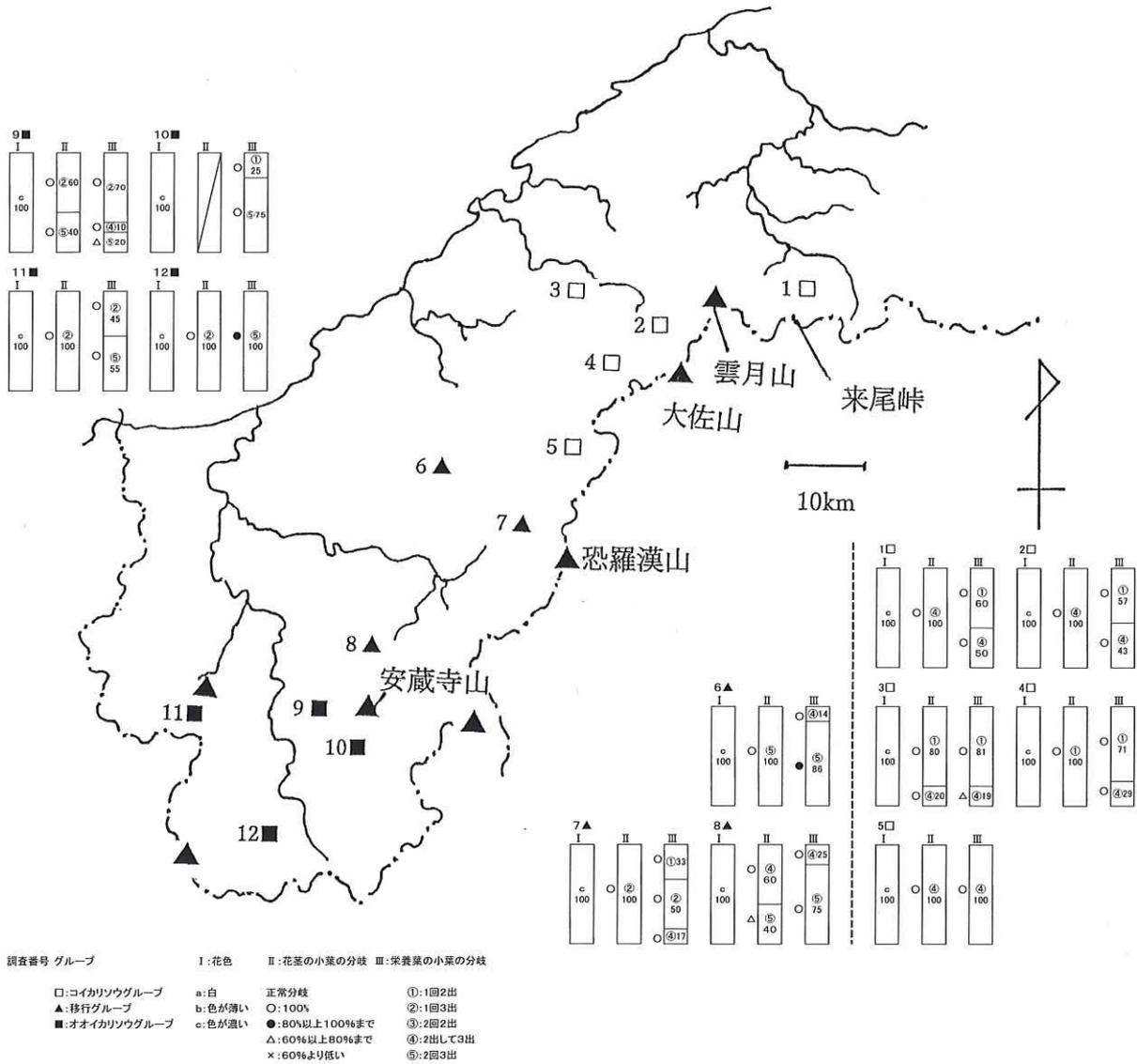


図1 観察地点と各形態

形態から柳浦 (2019) で分類したグループに従い分類した。

**コイカリソウグループ：□**

これは柳浦 (2019) で示した中部の江川流域に広く見られたもので、花はやや小さく赤紫色で、小葉が2出して3出するのを特徴とする。これが西部でも中部からの続きで、内陸部に広く見られた。また、調査地点としては挙げていないが、来尾峠や雲月山の峠付近などの標高が高いところまで見られた。

**オオイカリソウグループ：■**

柳浦 (2019) ではトキワイカリソウグループとし、考察でオオイカリソウ (ウラジロイカリソウ) としているもので、小葉は2回3出であるが、葉が細長く、時に花が赤紫から紫色を示す個体である。これが津和野町や吉賀町の安蔵寺山塊に分布していることが確認できた。これは標高の高い場所だけでなく調査地番号9の標高150mとかなり低い場所まで見られた。またこれから西に続く黒崎 (1981) での調査地75 (山口県阿武郡阿東町徳佐310m) でも小葉が1回3出か2回3出で花色が赤紫で距が長いと報告されているのでまとまった形態をもつ地域と考えられる。

**移行グループ：▲**

上記の2つのグループの間には同じ株でも1回3出するものと2出するものがあるなど両者の形態をもつものが見られた。

**5. ま と め**

調査をしてみて、西部では花が赤紫で小葉が2出して3出、または2出するコイカリソウと呼ばれたものが中部から続いて広く見られた。また、西部のさらに西奥部の標高のやや高いところに生育する小葉が2回3出、または3出するオオイカリソウなどとよばれるものも生育し、この間に両グループの中間の形室をもつ移行グループも存在することが分かった。

西部のさらに西奥部の標高のやや高いところに生育するオオイカリソウグループは同様に標高の高い県境部の大佐山 (1069m) や恐羅漢山 (1346m) などの山塊の上部などにか山頂付近の調査まではできなかったので詳細は不明である。ただ、前述した来尾峠 (799m) や雲月山の峠付近 (830m) ではオオイカリソウが出てきてもよさそうだが、コイカリソウに分類できるものだけであったので西部の西奥部や山田 (1989) にある県東部との状況と異なるように思われた。

逆に海岸付近の丘陵部については江津市の江川西部から益田市にかけて何回も探してみたがイカリソウ属は発見できなかった。見つからない場合でも確実にないとはいえないが、これが出雲市から江津市江川東部では丘陵域の各谷に入れば大抵発見できるのに対し異なっていた。



写真1 1浜田市朝日町市木 越木  
小葉は2出して3出



写真2 9鹿足郡津和野町左鐙一ノ谷  
小葉は1回3出か2回3出

## 謝 辞

最後になりましたが、資料の提供や有益なアドバイス等いただいた山田和彦様、三瓶自然館での標本調査等に御便宜いただいた井上雅仁様には大変お世話になりました。また、本調査は令和4年度公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて実施しました。この場を借りてお礼申し上げます。

## 文 献

- 黒崎史平(1981)本州西部におけるイカリソウ属の地理的変異, 小野幹雄編, 日本産イカリソウ属の実験分類学的研究 総合研究(A)研究報告書, 37-50
- 前川文夫(1955)種の文化と形質の評価—イカリソウを例として, 植物研究雑誌30: 353-358
- 柳浦正夫(2019)鳥根県中部のイカリソウ(*Epimedium*)の分布と形態の比較, 鳥根立三瓶自然館研究報告 17:17-26
- 山田和彦(1989)鳥根県東部におけるイカリソウ属の地理的変異について, 鳥根県立安来高等学校研究紀要26: 1-8 鳥根県立安来高等学校